

李克強指数と潮流の変化

中国経済の動向が市場に与える影響は年々拡大しているが、あらためてそのことを痛感した。

米国の量的緩和の縮小、中国経済の減速、欧州景気の低迷などが市場のリスク回避の姿勢を強めていたが、そうしたセンチメントが先月あたりから変化しつつあった。その要因の一つは中国の変化だ。

今週月曜日、中国の首相李克強は、FTへの寄稿で、改革の継続とその力を強調し、経済成長率7.5%の達成やインフレや失業率が目標範囲内に推移することへの自信を示した。

実際に今週発表された8月のCPI、鉱工業生産指数、小売売上高、都市圏の固定資産投資などの経済指標の多くは、先に発表された7.2%の輸出の伸びと合わせて、こうした発言を裏付けるものになった。

また首相が経済状態を判断する際に重視しているという、発電量、鉄道輸送量、銀行融資を指数化したものは李克強指数と呼ばれるが、これも上昇している。

中国は今年前半の経済減速、資産バブルの崩壊、シャドーバンキング問題などで悲観論が高まっていただけに、その変化の市場に与える影響は大きい。

為替では中国経済との相関関係が深いオージーなどの資源国通貨や、円などのリスク感応度の高い通貨に影響する。

ただ中国の問題が全て解消されバラ色の未来が保証されたわけではない。シャドーバンキング問題や銀行の不良債権の問題はまだ解決の展望が見えない。

前任の首相温家宝が、中国の国際収支はバランスの取れたものになると公言した時、確かに貿易収支の黒字が減り、資本収支の黒字も減った。人民元の対ドルレートはこれを反映して安定的に推移した。しかし半年もしないうちに人民元は上昇を始めた。黒字が増えだしたからだ。

中国の国務院はその下に中央銀行や統計局などを抱える。国務院首相はあらゆる情報を知る立場にある。だから彼の発言が経済動向を的確に見通したとしても驚かない。しかし短期的なものだ。

とりあえず潮目は変わったとあっていい。だが中長期となると不確定要因が増える。